

## 1.【運動器系】

## 「症例 1」変形性膝関節症

女性 76歳 自営業

主訴 膝痛

現病歴 かなり以前から膝の痛みを訴え、今はたったり座ったりが一番辛いという、又脚になっている。

所見 硬脈、両側の胸鎖乳突筋の緊張。

治療 扁桃処置（復溜、手三里、天牖、大椎、大腸俞など）

胃の気3点（抵抗力をつける為）

帯脈（頸部緊張緩解の為）

膝5点の灸（内外膝眼、血海、梁丘、曲泉）を両側、

そして灸頭鍼（屈伸 中国の新穴）を加える。

経過 三回目の時に血圧を計ったら、210/80。

五回目（治療を始めて1ヶ月）立ち上がりが大分良いという。

七回目（39日目）のとき、血圧が155/88。

十一回目（2ヶ月余り）痛みが無く、ずっと歩きやすくなる。血圧は156/80、大分落ち着いてきている。

十六回目、治療を始めて4ヶ月余りで膝の痛み全く消失、治癒と認める。硬は硬だが、脈が浮いてくる。

考察 某大学の著名な整形外科の教授は変形性膝関節症を3つの病期に分けています。

つまり、初期（期）、中期（期）、末期（期）。

初期は「朝など動き始めの膝のこわばり」で、痛みがあってもしばらく休むと良くなります。

中期は、痛みがはっきり自覚されてくる。階段の昇降、正座不能、足をひきずる。この時期になると膝の軟骨がすり減り、炎症が引き起こされる。この炎症の結果、まず腫れ、熱が出ます。その後水が溜まってきます。また脚にもなってきます。末期は痛みがひどくなり、日常生活に支障をきたすようになるが、水が溜まることは無い。膝の関節そのものが変形し、内側と外側にでっばるようになる。すり減った面にはいつも圧力がかかっているため再生できない。つまり骨棘や骨堤と呼ばれるものが出来るわけです。

この患者は末期に該当するものと思います。